

性器のパパ活危険日バトル！



～つよつよ中年チ○ポVSよわよわ孕みたがり適齢期ま○こ～ゴム破れ編 **ver.2**









ごめん○○くん…!!



どうした？ 有希  
カラオケでも行くか

ちょっと急用が……

なるほど、さ  
戻って来るなら……

どうせ「アパ」で待つてるさ

はっはっはっ

はっはっはっ









彼女の名は、巴<sup>ともえ</sup>有希<sup>ゆき</sup>。 いわゆるギャル。

これから彼氏とデート…という時にパパ活相手から呼び出しを喰らった。デートを優先して断つてもいいが、やってる映像を撮られているという弱みを握られている。

何をされるかわからない。特に彼氏には知られたくない。有希は抱かれるしかなかった。

しかし、今日は危険日。一応、避妊にコンドームを着けているが、これは普段から有希が持っている彼氏用のものだった。

別に彼氏のモノは普通サイズ、小さいわけではない。だが、パパ活相手の男のモノは、天を突く馬並みである。

コンドームも亀頭の周りを覆うのがやっと。辛うじて、カサに引っかかっているような状態。















やべっ♥やべっ♥  
ゴム越してチンポが  
子宮に触れただけなの...♥

危険ロマジやべっ♥  
子宮が全力で孕みながら...♥  
これ...もしゴムなしだったら触れただけで...

● REC













ゴムのないチンポと子宮、生の粘膜同士が触れる。  
その瞬間、有希の身体は堕ちていた。

彼氏にも許したことのないゴムなしエッチ。  
初めての経験に、子宮が生チンポに初恋するのは至極当然。

服従の証に白旗代わりの潮を吹く。  
乳房は母乳を滴らせ、嫁入りの支度を整える。

あまりに強い妊娠願望から、  
孕む前から孕んだ後の現象を起こす。

子宮は今まで以上に中年チンポに吸い付き精子をねだる。  
このチンポで孕ませろと…、有希の思考を  
生殖本能一色で染め上げる。

そして快楽目的のセックスは、  
子作り目的の交尾となった…。



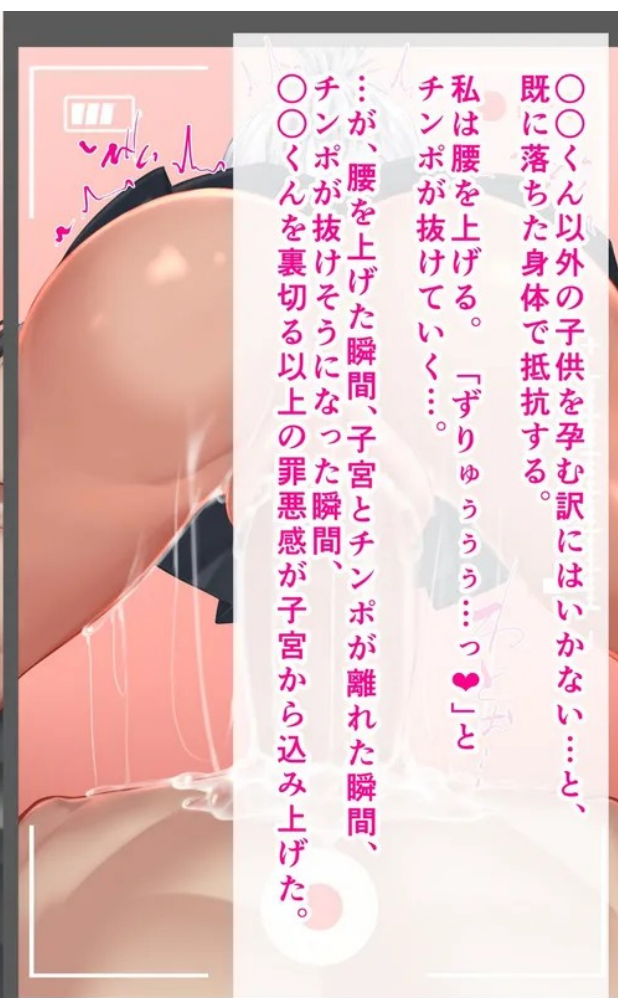
ごめ...もう無理!  
出すしかねえ!

ちきと待って!?  
こいえ...触れていも...♡  
やっぱ壁ちた...♡♡  
そうだ! しゅせーストオ〜ッス!!

● REC







〇〇くん以外の子供を孕む訳にはいかない…と、既に落ちた身体で抵抗する。

私は腰を上げる。「ずりゆうう…っ♡」とチンポが抜けていく…。

…が、腰を上げた瞬間、子宮とチンポが離れた瞬間、チンポが抜けそうになった瞬間、〇〇くんを裏切る以上の罪悪感が子宮から込み上げた。







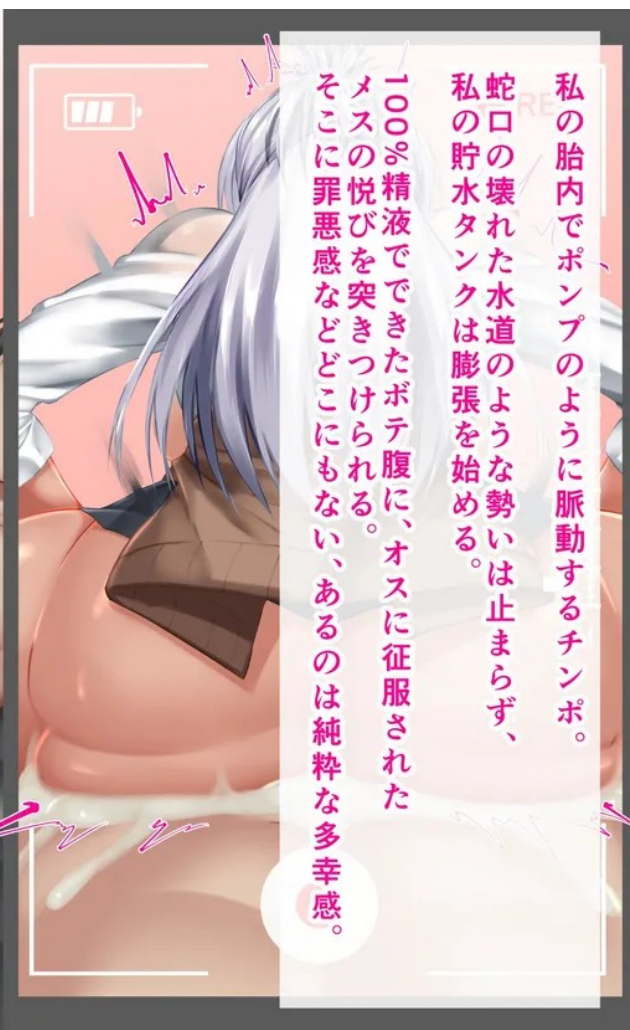
頭の中で快楽の電撃が「パチッ♥パチッ♥」と弾ける。  
お腹の中では精子が「びゅるるる…っ♥♥」と弾ける。  
頭もお腹も真っ白に染め上げる。

生の子宮内粘膜に赤ちゃんの素が触れる初めての経験、  
彼氏にも許したことのない、セックスではなく交尾。  
子宮が精液の味を覚える気がした。  
彼氏以外の男の遺伝子汁が初恋の味となる瞬間。

わずかな罪悪感と、噴流のような多幸感が  
精液と共に押し寄せる。

いったい何に罪の意識を感じていたのか…。  
この圧倒的な幸福に比べれば、  
メスとしての原始的な幸福を前にすれば、  
そんなものは些末なことだ…。





私の胎内でポンプのように脈動するチンポ。  
蛇口の壊れた水道のような勢いは止まらず、  
私の貯水タンクは膨張を始める。  
100%精液でできたボテ腹に、オスに征服された  
メスの悦びを突きつけられる。  
そこに罪悪感などどこにもない、あるのは純粋な多幸感。



すっげー……♡とんだけ出んのこのキンタマ……♡  
中年オヤジのクセになんつー生殖能力だよ……♡♡♡



むしろ中年ゆえか。出産適齢期の少女に、  
己の種を植え付けるチャンスを得たオスは生殖本能が暴走。  
精液ジェネレータと化したキンタマは、  
フルスロットルで大量の遺伝子汁を生産。















少女の子宮にトドメが刺される。

子宮内という聖域は、中年の遺伝子で隙間なく蹂躪される。孕ませようとするオスと孕もうとするメス。番つかいとっていいだろう。

しかし、行為が終われば、二人の一時的な関係も終わる。受金けとる精ものを受け取った少女の懐は満たされる。

その後、少女は彼氏とは別のオスの精子を腹に抱えたまま街へと消えた…。



○○ん...!?

待つてくれたの…？

当たり前だろ  
彼氏なんだし

はっ  
はっ  
はっ

はっ  
はっ  
はっ

3.000 100%

ってかなんだ  
その格好？w

え……!? これは…  
そ…そのって…なに…かな?  
あはは…

木

الحمد لله

有希は、腰に巻いているカーディガンをさつきまでとは前後逆に着けることで、  
精液で膨らんだボテ腹を覆い隠していた。

…が、それは完全とはいかず、大きすぎるお腹は隠しきれていない。  
やはり無理があったのか……。



本当なら、お腹を精液を今すぐにでも排泄したい。  
：が、男の精液が濃すぎるのか、有希の子宮口がピッタリと閉じすぎているのか、  
ほとんど溢れる気配がない。

孕ませたいオスの精液はいつまでもメスの胎内に留まり続け、  
孕みたがりのメスの子宮は健気にそれを蓄え続ける。  
その決心は恋仲の相手を前にしても揺らぐことはなかった。

生殖本能



カーティガン前に垂らして  
巻いてる奴なんて初めて見たわW  
腹でも冷えたか？

え…!?

?

ま…まあ…  
そんなところかな？

そくだな、そろそろ  
腹も減ったしどっか行こうぜ！  
俺を待たせた分  
付き合ってもらうぜ

え？ あ…うん！

おっ

ん

ん

アキ

彼氏の察しが悪くて助かった。

遅ればせながらデートは続行、ちなみに最後までバレることもなくデートも完遂。

すぐに戻るといいつつ、日が暮れるまで待たせてしまったが、笑って許してくれた。彼氏のことが好きだと再認識できた有希であった。

しかし、彼女の子宮は二人がラブラブデート中も、彼氏とは別の男の精子をタップリと抱えたまま。それも中年の精子で孕もうとしていた。

当然、彼は彼女がそんな状態とは知らない。

自分に好意を寄せてる女が、その胎内では現在進行形で精子と卵子配偶子同士の取り返しのつかない寝取りデートが行なわれていた。

